

令和5年度 江戸川区立小岩第二中学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

学校教育目標	・進んで学び、協力し合う生徒の育成 ・規律を守り、責任を果たす生徒の育成 ・健康で思いやりのある生徒の育成	○目指す学校像 ○目指す児童像 ○目指す教師像	・期待感をもって登校し充実感をもって下校する学校 ・将来に対する夢や希望を育てる学校 ・社会人としての能力・態度を身につけることができる学校 ・進んで学び、協力し合う生徒 ・規律を守り、責任を果たす生徒 ・健康で思いやりのある生徒 ・教育公務員としての自覚をもち、自分をバージョンアップし続ける教師。
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>学校ホームページの充実や連絡メールの活用等により、学校から家庭への情報発信を拡大させることができた。タブレットの活用やTeams・Formsの活用など校内のICT化を進める事ができた。エンカレッジルームを整備するなど、特別な配慮が必要な生徒への支援を促進させることができた。 <課題> 授業において生徒の主体的で対話的な学習をさらに進め、学力の向上を目指す。校庭が使用できなかったこともあり、体力の向上に課題が残った。		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価	年度末に向けた改善策
				取組	成果	評価	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進 ・学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得 ・家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・各教科を横断し、課題解決力・判断力・言語能力・表現力を身に付ける活動を行う。 ・「よむYOMU」ワークシートに取り組み、読解力を培う。 ・「ミライシード」を活用して、個別最適な学びを進める。	・令和8年度までに全国学力調査で全国平均を上回る。 ・令和6年度の全国学力調査までに、C・D層の割合を40%以下にする。	A	B	B	・「よむYOMU」ワークシートを今後も継続し、読み解く力を育成する。 ・「ミライシード」の活用をさらに進める。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・読書を通して探求する活動を行う。 ・調べ学習や新聞作成に図書を活用する。 ・図書館の配架を進め、活用しやすい図書館にする。	・全員が探求的な学習の成果としての作品を作成する。 ・今年度中に図書館の整備を完了させる。	B	B	B	・読書科については各学年で探究的な学習を実践する。
	<教員研修の充実> ・教員の授業力の向上	都や区の教育委員会のほか、外部から講師を招き、授業改善を図る研修を実施する。	「授業が楽しい」と考える生徒の割合を90%以上にする。	B	B	B	・2学期には東京都の指導主事を招聘し、特別な教科道徳に関する研修を実施する予定である。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・体育の授業で補強運動を実施し、体力の向上を図る。 ・昼休みの外遊びで「学年全員外遊びの日」を設定し、積極的に体を動かす習慣をつける。 ・校庭の外遊びで活用できる遊具を整備する。	・体力テストで東京都の平均を上回る。 ・生活アンケート「体力向上を意識して生活したか」の質問で「はい」と回答する生徒が90%以上となるようにする。	B	B	B	・体育の授業では補強運動を積極的に取り入れる。 ・朝運動は今後も取り入れていく。 ・昼休みに多くの生徒が校庭で体を動かすように環境を整備していく。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・隔週で特別支援教育委員会を開き、情報の共有や今後の方針の検討を行う。 ・ユニバーサルデザインにもとづいて教室を整備する。 ・副籍交流を促進し、取組を進める。	・7月までに個々の支援シート(フェイスシート)を作成し、全教員で共通理解を図る。 ・チャークの色や教室掲示の仕方など全教室でユニバーサルデザイン化を進める。	B	A	B	・ユニバーサルデザインについては、教室環境の整備や生徒への声掛け・指示の工夫など、意識的に取り組む。 ・特別支援委員会を中心に、個々に応じた対応を検討・実施していく。
	<SDGsへの取組> ボランティア活動の推進	・生徒会を中心にボランティア活動を活性化させ、SDGsについての意識を高める。	・生徒アンケートで「日頃よりSDGsに取り組んでいる」と回答する生徒を90%以上にする。 ・ボランティア活動に全生徒の30%が参加する。	B	A	B	・生徒会を中心にボランティア活動を計画し、多くの生徒が参加して実施していく。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hupaer-QUの活用	・エンカレッジルームを利用する環境を整備し、生徒がエンカレッジルームを利用しやすいとする。 ・hupaer-QUの実施後、教員間で結果の分析を進め、今後の支援について方針を決める。	・エンカレッジルームの活用により、自宅にとどまる生徒数をゼロにする。 ・hupaer-QUで「要支援生徒」の割合を3%以下にする。	A	B	B	・エンカレッジルームをさらに活用し、登校できる生徒を増やすとともに、教室復帰に向け支援する。
	<いじめ防止の推進> いじめ防止に向けた取組の推進	・いじめ防止総合対策に基づき、校内のいじめ防止を図る。 ・朝礼でいじめに関する講話を行う。 ・特別の教科道徳でいじめに関する授業を3回行う。	・いじめ防止総合対策に基づいた対応を行い、いじめの未解決をゼロにする。 ・いじめアンケートを年3回実施する。	B	A	B	・いじめの早期発見・早期解決を目指し、今後未解決ゼロを続ける。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校の取組の積極的な発信> ・学校ホームページの充実 ・学校公開の実施・充実	・ホームページから発信する情報を増やす。 ・テトルの活用をさらに進め、保護者との連携を密にする。	・校内の出来事について情報を発信し、毎日更新する。 ・テトルの各家庭の加入率を100%にし、学年通信等デジタルで配信する。	A	A	A	・ホームページは内容は充実し、校内での生徒の活動がわかりやすいものになっている。 ・tetoruが頻繁に活用されている。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・ICTを活用し、集計・回答しやすい形式を整え、結果を教育活動に活かしやすいようにする。	・Formsを活用したアンケートを実施し、改善に向けた検討を年に2回以上行う。	A	B	B	・保護者や地域の意見をこれからも学校の改善に役立ててほしい。
	<小学校との連携> 小中連携教育の充実	・年に2回の小中連携の日を活用し、教員や児童・生徒の連携を深める。	・小学生が本校を訪問する機会や本校教員が小学校で訪問授業をする機会をそれぞれ1回以上つくる。	B	B	B	・来年度入学生向けの部活動体験などを実施の予定である。
特色ある教育の展開	<デジタル技術の活用> 授業のICT化	すべての授業において効果的にデジタル教材を活用する。	100%の教員が授業において、デジタル教科書やタブレットを活用する。	B	B	C	・研修も多く実施しているようなので、その成果を生かしてほしい。
	<「学校における働き方改革プラン」> 「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・働き方の見直しを進め、長時間労働の是正に取り組む。 ・職員会議のペーパーレス化を進める。 ・部活動は複数顧問制とする。 ・月2回の定時退勤を推奨する。	・全教員の超過勤務時間を平均40時間以内にすること。 ・職員会議の資料を100%ペーパーレスとする。	B	B	B	・超過勤務時間を平均40時間以内を目指して、働き方改革を進める。